

豊かな人間関係を育む子ども

【学校を取り巻く環境】

- 埋め立てによって新しく生まれたまち
- 多くの工場がありながら、自然も残るまち
- 人々の営みが感じられるまち

1 目標

まちの自然や社会、人々についての探究的な学習を通して、まちの人や仲間とのコミュニケーションを図りながら、自ら進んで探究を深めていける能力と態度を育て、まちに対する愛着をもって、自己の生き方について考えることができるようにする。

【子どもの育ちへの願い】

- 想いや願いの実現が図れる子ども
- 豊かな人間関係を育む子ども
- まちを愛する子ども

2 育てようとする資質や能力及び態度

	中学年	高学年
学習方法に 関すること (情報活用能力)	○対象とのかかわりの中から、興味や疑問をもち、課題を見つける。 ○課題を解決するための見通しをもって計画を立て、解決のために必要な情報を考えながら収集する。 ○相手に伝わるように、わかりやすくまとめ、表現する。	○対象と積極的にかかわる中で、自ら課題を設定する。 ○課題を解決する方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てるとともに、解決のために適切な手段や内容を選択し、情報を収集する。 ○相手や目的に応じて、わかりやすい方法で表現し、伝える。
自分自身に 関すること (自分なりの見方・考え方)	○体験を通じた探究活動の楽しさや、自分自身の成長を実感する。 ○自分のもっている知識や技能、自分なりの見方・考え方を、課題解決のために活用し、進んで探究する。 ○課題解決や、想いや願いの実現に向けて、自分のやるべきことを決定し、実行する。	○探究的な学習活動の楽しさを味わうとともに、自己有用感をもつ。 ○自分のもっている知識や技能、自分なりの見方・考え方を、課題解決のために活用し、最後まであきらめずに探究する。 ○課題解決や、想いや願いの実現に向けて、正しいと判断したことがらを自分の意志で実行する。
他者や社会とのかかわりに 関すること (コミュニケーション能力)	○自分と違う考えや意見があることを認める。 ○仲間と力を合わせて課題の解決に取り組む。 ○思いを伝え合い、様々な人々と交流する。	○異なる意見や他者の考えを受け入れ、理解する。 ○自分や仲間のよさを生かして課題の解決に取り組む。 ○思いを伝え合い、様々な人々との交流を深める。

問題解決の能力

3 内容

	学習対象	学習事項	
		中学年	高学年
環境	身近な自然環境とそこで起きている環境問題	身近な自然環境のよさへの気付きと身の回りの環境改善	身近な自然環境を大切に取る取組と地域の人々との協働
まち	身近な地域の人々やもの、そこにある問題	地域の人々の暮らし、産業等の理解とまちへの愛着	地域の人々、産業と自分たちの生活とのかかわり
福祉	地域に暮らす年少者、高齢者、障害者と、その暮らしを支える人々や施設や仕組み	年少者・高齢者・障害者などに温かい気持ちで接することの大切さ	誰もが支え合って幸せに生きることができる社会の重要性
キャリア	自分の将来との関係で訪ねてみたい人や施設・機関	まちの人々との関係から気づく自分自身のありかた	まちの人との出会いから考える将来の生き方
食	毎日の食生活と健康な生活、それを支える人々や食文化	食事を作る人への感謝の心と楽しい会食のマナー	食事に携わる人への感謝と協力や思いやりのマナー
健康	毎日の健康な生活とそれを支えてくれているもの	自分や友だちのよさの発見と気持ちの伝達	心の発達についての理解とコミュニケーションのとり方
伝統文化	地域の暮らしや伝統文化と、その継承や発展に尽力する人々	地域の歴史と、地域の発展に尽くした先人の思い	横浜や日本の歴史と横浜の未来
安全	安全な生活とそれを支えてくれている仕組みや地域の人々	危険の原因や事故防止についての理解と安全な行動の仕方	生活の中に潜む危険の予測と安全な行動の仕方
ものづくり	学習に取り組む中で、児童から生まれた問題意識に基づいた創作活動	ものづくりにおいて必要となる基本的な技能や素材への理解	ものづくりにおいて必要となる技能や素材への理解
情報	学習に取り組む中で、児童から生まれた問題意識に基づいた情報の処理	問題解決において必要となる基本的な情報機器の操作や、情報モラルへの理解	問題解決において必要となる情報機器の操作や、情報モラルへの理解

4 評価

- 単元の構想にあたっては資質・能力と内容の両面から目標を設定し、評価の観点に即した評価規準を設けて評価と支援に活かす。
- 観点
 - 自分なりの見方・考え方 (自分自身)
 - コミュニケーション能力 (他者や社会)
 - 情報活用能力 (学習方法)
 - 問題解決の能力
- 子どもの具体的な姿を見つめて、発言やつぶやき、表情、製作物、ワークシートなど多様な評価資料を蓄積する。
- ポートフォリオなどによる評価を行うと共に、活動の足跡を掲示物などに残して常に振り返ることができるようにする。

5 (1) 学習活動

- 各学年・学級がそれぞれの学びを発表したり互いに見合ったりする。
- 各学年のテーマを意識し、実現に向けて見通しをもって実施する。
 - 3年 たんけんしよう、みつめよう
～大好き！このまち・横浜のまち～
 - 4年 つながりをひろげよう
～めざせ！みんなにやさしいまち～
 - 5年 みんなでつくりあげよう
～私たちの食と未来～
 - 6年 一人ひとりが輝こう
～卒業までの私たちの道～
- ※6年生は個別探究による卒業研究

5 (2) 指導方法

- 具体的な体験活動を多く取り入れ、子ども自身の興味関心を重視した課題設定や探究活動が行えるようにする。そのため、教材の吟味や単元構成の工夫を行い、子どもの姿を十分とらえた上で教えることと引き出すことを見極めて適切に支援する。
- 一人ひとりの課題解決だけでなく、友達と協同して学習活動に取り組むことを重視し、さらに様々な人々と出会い、交流を深めながら学べるようにする。

5 (3) 指導体制

- 基本的には学級担任が指導の中心となる。
- 学年内や専科教諭との協働も積極的に行う。
- 関連機関等 (公共施設、商店、工場) との連携を図る。
- 必要に応じてまちの人、専門家など、学習ボランティアの協力を仰ぐ。
- 教師自身の研修を行い、まちについての知識や見方・考え方を広げる。

【各教科等との関連について】

- 教科等との効果的な関連を図る。そのため、
 - ・教科等における学びが総合に活かされたりより確かになったりする。
 - ・総合において教科の学びの必要感が生まれ、教科学習の質が高まる。
 - ・総合における学びが教科等の学習に活かされる。
- といった様々な学習のあり方を効果的に取り入れられるよう、見通しをもった単元構想を行う。

【地域との連携について】

- 保護者や学習ボランティアの協力を様々なところで積極的に得る。
- PTAのサークル活動、校外の活動における見守りや安全指導、製作等におけるサポートなど
- 継続的に畑や公園、工場などでお世話になっている方々には、学校内での連絡やひきつぎを密にし、つながりを大切にする。

【小学校低学年及び中学校との連携について】

- 9年間の育ちを意識し、小学校としてはまず生活科と総合のつながりを大切にする。そのため、生活科における学習体験を活かし、体験を通して学ぶこと、身近なところから問題を見出すことなどを重視する。
- 並木地区5校のつながりがあるため、
 - ①近隣小学校との情報交換
 - ②2つの中学校との情報交換 を行い、教材や活動、学習内容などについての情報を共有し、単元づくりに活かす。